



12月市議会 一般質問

巨大データセンター・原発乾式貯蔵・ 介護危機・イノシシ被害

12月議会で井上勝博議員は、①巨大データセンター問題②使用済み燃料の乾式貯蔵③介護事業者の危機④イノシシ被害対策の4つのテーマについて、市政の姿勢を質しました。

サーキュラーパーク九州（火力発電所跡）に計画されている350MW級AIデータセンターは、原発1基の4割に相当する電力を消費し、廃熱や水温上昇など重大な影響が懸念されます。しかし市は「事業者が対策する」「注視する」にとどまり、独自調査を行う姿勢が見えませんか。

使用済み核燃料の乾式貯蔵施設では、耐震性・除熱性能・ガスケット劣化などの重要点で、市が具体的な説明を受けていないことが判明。全国で長期化が進む中、薩摩川内市としていつまで敷地内に置くのかという姿勢も示されず、「国任せ」が際立ちました。

イノシシによる農作物被害については、生息分布や出没状況を地図化する「見える化」で対策の強化を提案しました。市は個体データを持ちながら、まだ十分に活用されていないことも明らかにしました。

4つの分野に共通するのは、市が「事業者任せ・国任せ」で

介護の現場では物価高と人材不足により7〜8割が赤字との深刻な実態が寄せられ、撤退リスクが高まっています。井上議員は市独自支援を求めましたが、答弁は消極的で、地域の介護をどう守るのが問われています。



質問する井上議員
（＝8日、本会議場）

市民の安全や暮らしへの影響を十分に検討していない点です。井上議員は「市民の不安に正面から向き合う市政へ」と迫りました。民報きずな来週号からは、それぞれのテーマを詳しく紹介していきます。

入来工業団地に23MWの データセンター計画

市民に知らされないまま進行

市は、11月25日（火）の議員全員協議会で入来工業団地（旧富士通工場跡地）にAIデータセンターを建設したい企業を交渉相手に選んだことを公表しました。計画規模は合計23MW（1期4MWコンテナ型）

2026年8月操業予定、2期19MW恒久的建物型2027年6月（12月予定）で、これは一般家庭2万〜3万世帯分の電力に相当する大規模な施設です。市民への説明はまだ行われていません。

工業団地の周辺には住宅が多く、データセンター特有の騒音・排熱・非常用発電機の排気・夜間照明など、生活環境への影響が懸念されます。地下水の利用や電力供給体制についても、市は詳しい説明をしていません。

地域の暮らしに大きく関わる計画である以上、市は丁寧な情報公開と住民説明を行い、市民の不安や疑問に答える必要があります。

入来工業団地のレイアウト図



入来工業団地のレイアウト図 2街区・7～9街区（4街区合計 約37,000㎡）

こちらくらしの相談所
(No. 632)
携帯 080-3996-0237 (井上)
なんでもご相談ください。

指人工内耳を紛失した小学生家族の訴えー市の聞き取りはあったが…**

母子家庭の小学生が人工内耳（約百万円）を紛失し再購入できないという相談を受け、市へ制度改善を要望

してきました。人工内耳は補聴器とは異なる医療機器で、子どもの学習・生活を支える不可欠なものです。市障害福祉課から「詳しく聞きたい」との連絡があり、聞き取りが行われましたが、市は「レンタルできるところを探したが見つからなかった。今後探す」という回答にとどまり、本来検討すべき「障害者等日常生活用具給付」へ人工内耳を加えるかどうかという制度の根本改善には踏み込まなかったのです。

人工内耳を給付対象にするかどうかは、最終的には市長の判断で決めることができる事項です。相談後、がっかりした母親の背中が寂しそうでした。障害が不自由を生むのではありません。制度が追いつかないことが人を追い詰めるのです。この問題は、来年3月議会の一般質問でも取り上げ、子どもと家族が安心して暮らせる支援制度へ前進させたいと思います。暮らしの中の困りごととはご相談ください。



エプロンおばさんの 簡単フッキング (686)

ハムとチンゲン菜のレンジ返し

材料 (1人分)

チンゲン菜 2束 (200g)、ハム 4枚、
ごま油大 ½

作り方

①チンゲン菜は茎と葉に分ける。葉は3等分に切る。茎は縦半分に切り、さらに約6等分のくし形切にする。

②耐熱皿に①のチンゲン菜の茎を広げる。上からチンゲン菜の葉を全体にのせる。ハムは約4等

分に手でちぎり、葉の上ののせる。ふわりとラップをかけて、電子レンジ(600W)で3分加熱する。

③②をざるにあけて、水けをきる。ごま油を全体にかけてまぜ合わせ、塩小 ¼ を振って絡める。

今年も恒例の

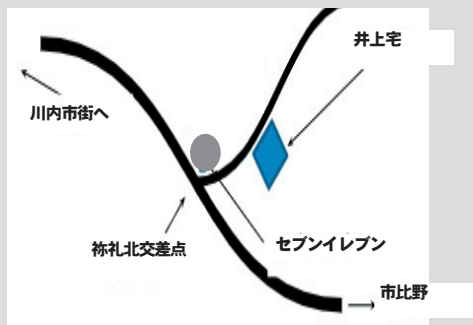
もちつき大会



参加費
500円

日時
12月21日(日) 午前11時
会場
井上かつひろ市議宅
樋脇町塔之原10439

☎080(3996)0237



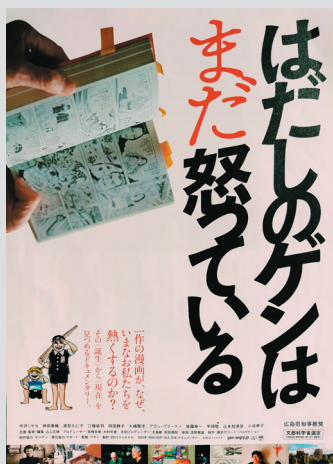
主催：日本共産党薩摩川内市委員会／同後援会

No. 63



シネマ太郎の映画評と案内

はだしのゲンはまだ怒っている (2025年)



はだしのゲンは
まだ怒っている



土を喰らう一二か月

広島に投下された原爆で被爆し、父、姉弟を失った中岡元(ゲン)が懸命に生き抜く姿を描いた漫画「はだしのゲン」。

ゲンは、この漫画の作者であり、6歳のとき広島で被爆した中沢啓治(2012年死去)自身がモデルです。1973(昭和48)年「週刊少年ジャンプ」で連載開始、現在は単行本として刊行され、ご存じの方が多くと思います。10年以上前かと思いましたが、他県で、この漫画の描写が「過激」「間違った歴史認識」などという理由で学校図書からの撤去を求める陳情がなされ、大きく報道されました。2年前には広島市で平和教育の教材として掲載されなくなるとい

ことが起こりました。「はだしのゲン」は世界25か国で翻訳出版されているそうです。そして昨年、漫画界のアカデミー賞といわれるアメリカの「アイズナー賞」を受賞しています。上映は12月19日まで(ガーデンズシネマ)。さて、気になる次の映画。今回は川内まごころ文学館の名作シネマ上映会の2本です。以前、この紙面に掲載した作品で、「土を喰らう十二カ月」(2022)(12/20(土)10時)、「東京物語」(1953)(12/21(日)10時)。いずれも1年の締めくくりにふさわしい映画だと思っています。特に「東京物語」。小津安二郎監督、不朽の名作。川内まごころ文学館に感謝です。



←中俣先生のブログはこちら

中俣先生の つれづれなるままに (817)



電車が伊集院駅に着いた。ドアが開くと、ところどころに目散に、私の横の空いた座席に、石ころが転がり込んできた。た、と思ったが若い女性だった。横に座っているおじさんをも石だと思ったのか、ことばも会釈もない。ガタン。当たり前のように電車が動き出すと、女は、ごそごそと大きな手提げ袋から弁当を取り出した。あれあれと思う間もなく、無遠慮に蓋を取り、くしゃくしゃと食べ出した。ぽーんとおじさんの鼻を突くおかしさ。おじさんは石ころの姿で、思わず顔をそむけた。川内発9時前の電車だったから朝食を掻き込んでいたのかも知れない。そういえば健康的な赤いほっぺに化粧ツギがない。ひと駅済んで食べ終わると、おじさんはなぜかほっと息をついたが、今度は握りこぶしの二倍もある、ラップに包んだおにぎりを取り出しパクパク食べ出す。隣がくすんだおじさんでなかったらそういうこともなかったらうに、完全に無視して、一人お腹を満たしている。なんだかわいそうなおじさん。小さくなつて電車は中央駅に着いた。女の子は、その少し前に食べ終わって、強引にラップを袋にねじ込み、そそくさと立ち上がった。その時だった。女の子の口が少女のように開いて、にこっとおじさんに向けて会釈した。初めて石ころのような不細工なおじさんに、かわいらしい笑顔が届いたのだ。おじさん、すなわち私は、春風に吹かれたような温かい気持ちになって電車を降りた。少女の笑顔を抱いて。(詩愛好家)